

愛媛大学／文理学部理学科／理学部

同窓会報

通巻 16 号第 4 号

《目次》

御挨拶	同窓会長.....	2
愛媛大学理学部の改組改革	理学部長.....	2
教室便り		3
理学部現教職員名簿		8
旧教養部教官転属先		8
愛媛大学理学部 50 年史原稿募集		9
会計報告 あとがき		10



御挨拶

同窓会長

高野 静

同窓会員の皆様、ますます御健勝のことと存じます。月日の経つのは速いもので、本同窓会も、昭和28年3月の1期生卒業時から間もなく満44年を迎えようとしています。理学部が文理学部から独立してからも、30年近く経過しました。また、大学開校の昭和24年から47年、そして、平成11年には、開学50周年に当たるため、種々の記念行事が計画されています。

理学部について、振り返ってみますと、昭和24年度に文理学部自然科学科として発足し、つづいて、文理学部理学科と改称され、更に昭和43年度からは理学部になりました。その後も、学部内や大学院など次々と発展を遂げまいりましたことは、皆様もよく御承知のことと思

います。更に、本年度からは、教養部がなくなり、理学部内の学科改組が別記の通りなされ、ますます発展してきています。その間、卒業生も4,000人を超え、本同窓会も大所帯になりました。そして、いろいろな分野で活躍されておられることは、まことに御同慶のいたりであります。すでに初期の卒業生の方は、定年を迎え、第2の人生あるいは悠々自適の生活等、有意義な生活を送っておられます。

さて、この度の同窓会報につきましては、大学側から学部長のお言葉や教室便り等大変お世話になっております。心から御礼申し上げます。

次に、平成11年の記念行事に先だって、50周年記念誌を刊行することになり、皆様からの投稿をお願いすることになりました。別記の募集要項の通り、多数の方々御応募くださいまして、より良い、楽しい記念誌になりますよう、よろしくお願いいたします。

会員の皆様方のますますの御健勝、御活躍を祈念しつつ、御挨拶といたします。

(文理学部数学1期生、元高校教員)



愛媛大学理学部の改組改革

理学部長

小松 正幸

本同窓会の皆様におかれては益々ご活躍のことと思います。また、常日ごろ本学部のために種々ご支援を頂き感謝致しております。理学部は文理学部の改組によって発足してから平成10年(1998年)には30年目になり、平成11年(1999年)には文理学部理学科の発足以来50年目を迎えます。同窓生は文理学部卒業生、修士課程修了生を含め4,250人を数え、21世紀に向けて益々発展しているところであります。本年度(平成8年度)には理学部発足以来、最大の学部改組を行うと同時に、長年の念願であった博士課程の設置が実現しました。この機会をお借りして学部改組の概要をお知らせし、さらに一層のご理解とご支援を頂きたいと存じます。

学部改組について

愛媛大学では数年前から全学的に大学改革に取り組んできました。ご承知のように大学改革は愛媛大学ばかりでなく全国的に行われているもので、大学が教育理念、目的、社会的使命を明確にし、特色ある教育研究活動を推進することが求められてきました。その背景には18歳人口が年々減少していくこと、その一方で大学進学率は年々増加傾向にあり、大学は極めて多様な学生を教育す

る場になっていくこと、社会が高度の科学技術を求め、21世紀に向けて独創的科学技術を創出すること、さらに情報化、国際化に対応することが必要になっていることにあります。

愛媛大学では今年4月、教養部が廃止され教養教官は法文、教育、理、工、農の各学部に分属し、理学部には19名の教官が移籍しました。理学部は同時に、従来の5学科を3学科に改組し、小講座制を改め22小講座から10大講座になりました。これに伴って入学定員は30名増、教官定員は新規増を含め64から83になりました。新しい学科と大講座名および旧学科との対応関係は別表をご覧ください。

理学部新学科と旧学科との対応

旧学科名	新学科名	新大講座名	入学定員
数 学 科	数理科学科	構造数理学 解析数理学 情報数理学	50名 (2)
物理学科 化学科	物質理学科	基礎物理学 物性科学 物質機能科学 分子物質科学	95名
生物学科 地球科学科	生物地球圏 科学科	生物機能科学 生態環境変遷学 地球進化学	80名 (4)
5 学 科	3 学 科	10 大 講 座	225名 (6)

() 書は臨時増募定員で外数

教室だより

[数学教室]

同窓会の皆様には各分野で御活躍のことと存じます。

前回の同窓会だよりから8年たち、当教室では今までに例を見ないほどいろいろなことがありました。まず第一は平成8年度4月から教養部の廃止と理学部の改組が同時に行われ、従来の理学部のスタッフ13名に教養部からの移籍の先生方4名、新たに着任された先生方2名が加わり、学科の名称も数学科から数理科学科と変わりました。学生定員数も従来の39名から52名に増えすっかり大所帯になりました。また、長年の願いでありました大学院博士課程も理工学研究科環境科学専攻として平成8年4月より発足しました。今年は初年度ということもあり博士後期課程の在籍学生数は4名ですが、将来、留学生、社会人等も積極的に受け入れ、教育・研究機関として一層充実をはかってまいりたいと思います。

話が後先になりましたが、長い間教室の発展にご尽力をされてこられました永見、前田両先生が平成2年、4年に相次いで定年を迎えられたのをはじめ多くの教官、事務官の移動がありました。紙数の関係でここでは割愛させていただきますので別表を参照して頂きたいとおもいます。

情報化、国際化などがいわれ久しくなりますが、今ではそれもすっかり定着した感があります。現在当教室には2人の外国人教官がおります。また、各教官室だけでなく大学院生の控え室にもパソコンがおかれ、電子メールを通じ外国の研究者ともリアルタイムで交信ができるようになり、情報交換、共同研究などがとても簡単になりました。そのせいか、最近外国からの通常の郵便が随分少なくなったようです。

ご存知のような社会情勢で就職状況は前回の教室だよりのころに比べると、はかばかしいとは申せません。同窓生の皆様方のご助力を得て卒業生が一人でも多く希望にかなった職場に就けることを願っております。

末筆になりましたが皆様の益々のご健康と御発展を祈っております。
(野倉 記)

[物理教室]

物理教室の名物教授として、永年親しまれて来られた、仙波先生、松澤先生、百々先生、ならびに後藤先生が相次いで御定年となり、いま物理教室の古手で、皆様御存知の教官といえば、三島先生、丹下先生、私こと長谷川、須川先生、井上先生、菅谷先生、川合先生、神森先生くらいでしょうか。比較的新しいところで上田先生と飯田先生、また今年から旧教養部の吉井先生、江沢先生、横

数理科学科は従来の数学科に教養部から移籍教官を加え、情報数理部門を充実させました。物質理学科は物理学科と化学科を統合し、教養部からの移籍教官を加え4大講座に再編しました。基礎物理科学講座は物理プロパー、分子物質科学講座は化学プロパーですが、物性科学および物質機能科学の2講座は両者が融合しています。生物地球圏科学科は生物学科と地球科学科を統合し、教養部からの移籍教官と新規増を加え3大講座に再編しました。生物機能科学および地球進化学講座はそれぞれ生物プロパー、地球科学プロパーですが、生態環境変遷学講座は両者の融合したものです。各学科の融合分野はそれぞれの専門の境界領域における教育研究を進展させ、広い視野と素養を身につけた学生を育てることを目指したものです。また、学科を越えた協同を進展させることも模索しています。このために、カリキュラムも全面的に見直し改善しました。とくに1・2回生の時期には幅広い分野からの選択を可能にしています。しかしながら、理学部卒業生はそれぞれの専門をしっかり身につけて社会に出ることが必要ですから、3・4回生ではそれぞれの専門領域に分かれ、専門に専念することになります。

大学院改革について

学部改組と併せ大学院も大幅にかわりました。これまでの理工学研究科修士課程は廃止され、工学部と統合して理工学研究科前期課程(修士)後期課程(博士)となりました。理学部にとって長年の念願であった博士課程が今年度実現しました。前期課程(学生定員64名)は理学部の学科に対応した専攻となりますが、後期課程は工学部と融合し環境科学専攻(学生定員8名)となりました。これには理学部のすべての専門分野が加わっています。初年度は18名の学生が入学しました。18名の大半は本学の修士課程を修了し、企業や専門学校などで働いている社会人です。私どもはこの博士課程が社会との連携を強め、科学の特色ある教育研究の場として発展させるために張り切っているところです。同窓生のUターンを心から歓迎します。理学部では博士課程の入学案内リーフレットを作成しておりますから、ぜひ学務係に請求してご覧になって下さい。

——*——*——*——*——*——

平成11年6月には理学部・文理学部50周年を記念して祝賀会を催すことにしております。それに先だって50周年記念誌の刊行計画が進められております。記念誌には多くの同窓生からの投稿を期待しております。そして、3年後には多くの皆様方が松山で思い出ばなしに花を咲かせられんことを願っております。

田先生も物理教室の一員となりました。この2, 3年のうちに助手の先生は若手で一新され、小西、飯塚、前原、近藤の各先生、ならびに唯一の女性教官松岡先生が加わり、総勢18名の物質理学科・物理学教室となりました。

昭和28年に、文理学部の第1回卒業生を世に送り出して以来、物理学教室の卒業生はほぼ1,000名に達します。その間、各界でご活躍されておられる卒業生諸氏のおうわさを聞くことが、私ども教官の最も喜びとするところでした。物理学教室の伝統として、物理学学生実験ならびに卒業研究ではとくに学生と教官との真摯なふれあいを重視して参りました。ときには、意見の衝突とか、感情の行き違いもあったことと思います。それらも今となつては、楽しい思い出であります。近年でも、どうしても電磁気学や量子力学が分からないという学生は、昔同様、しっかりと存在しております。しかし、卒業生の半分以上が大学院博士前期課程に進学する現在の状況では、学生の基礎学力の不足が、看過できないところまで来ています。したがって、講義の内容は、一昔前よりもやさしくなっている筈です。

個性豊かな名物教授がだんだんいなくなっていくのと同様に、一芸に秀でた、情熱あふれた学生が少なくなっていくのも、時代の流れとはいえ、さびしいことであります。どうか卒業生の皆様、やる気のある荒けずりの若者を、本学科に送り込んで下さるようお願い致します。

(長谷川 記)

【化学教室】

卒業生の皆様方には、その後お変わりなく、お元気にご活躍のこととお慶び申し上げます。前回の同窓会報(平成元年)以後の化学教室の様子をお知らせいたします。この8年間での大きな変化は、長年、無機分析、構造、物化、有機の4講座制で、教育、研究を実施してまいりましたが、平成6年に、機能性分子の新講座ができ、林教授(東京大学理学部、基礎生物学研究所)と森田助手(東京大学田隅研出身、阪大蛋白研、蛋白工学研究所)とが着任され、分子生物分野の教育、研究が化学教室でスタートしたことであります。両先生とも、物理化学を基礎とした生命科学の研究が専門であり、愛媛大学に新風をと期待されています。さらに、大学の改組により、教養部はなくなり、大学院は理工学研究科になり、博士課程もできました。同時に、従来の講座制は、大講座制に変わり、化学の教官は、物性科学、物質機能科学、分子物質科学の講座に所属することになりました。現在の化学教室では、生命を分子レベルで理解しようとする分子生物から、分子のもつ機能の究極の発現を目標とした物性科学までの多様な分野の教育、研究を行っています。

このように、化学の研究分野は他分野の進歩をとりいれて急速に変化しています。これに、対応出来る教育、研究を目指し、組織の改編及び教官の人事を実施しました。以下、教室の近況を簡単にまとめてお知らせいたします。

無機分析分野は、黒田先生が平成2年に停年退官され、後任には岡崎先生が平成4年に着任されましたが、平成6年、京都大学工学部に移られました。同年、姫路工大理学部から真鍋先生が着任され、キャピラリー電気泳動によるタンパク質、DNAの分析に関する研究を平成7年着任の助手の島崎先生(横浜市大生物出身)となされています。化学教室の2階は、林先生と真鍋先生のグループで、生命科学関連の教育、研究を行っています。無機分野は、一階で、現在北村、渡部先生が協力して、黒田先生以来の錯塩化学の研究を実施しています。構造化学分野は、石津先生が平成4年に停年退官され、現在は山口でお元気にお過ごしです。田嶋先生は、平成7年に京都工芸繊維大学に栄転されました。平成元年に長岡先生(平成6年ミネソタ大学に派遣)が岡崎の分子研から、平成8年には小原先生(京都大学広田研出身)が着任され、向井先生と協同で、分子構造の研究を実施されています。さらに、改組により、東先生と四方先生が旧教養部から加わり、錯体の構造化学の研究を行っています。物理化学の分野では、浅田先生が平成元年北大から着任され、固体表面上の吸着層の構造研究をされています。平成8年11月には、須賀先生(名誉教授)が勲二等瑞宝賞の表彰を受けました。河野先生、樋高先生は、それぞれ表面反応と燃焼の研究を行っています。有機化学分野は、平成2年に鈴木先生が京都大学理学部に移られ、後任に小野が着任し、平成6年に村嶋先生(京都大学鈴木研出身)が助手に着任し、共同で、光、電子機能性物質の新規合成の研究を行っています。小川先生は、アメリカでの留学(MIT)から本年帰国され、新しいテーマとして分子配列の制御による機能創成の研究をスタートしています。平成9年から、九大の基礎有機研に2年の予定で移ります。堀内先生(機器分析センター)が平成8年に停年退官され、後任に谷先生が昇格し、導電性物質の合成研究をしています。平成8年には、センター助手として、天然物有機化学を専門とする倉本先生(静岡大学上村研出身)が加わり、宇野先生(オックスフォード大学に平成3年—5年ラムゼー奨学生として派遣)と協力して、海洋生理活性物質の探索とその合成研究を計画しています。旧教養部の田村先生は、平成7年北大に移られました。事務室は移動が多く、2, 3年ごとに、顔触れが変わっています。このように、教室員の移動は非常に激しく、送別会と歓迎会が毎年続いています。

現在、全国の大学は変革の時期を迎え、特色のある大学を目指して、優秀な教官の獲得を全国的な規模で競っています。また、18歳人口の減少に伴い、いかにして多

くの学生を入学試験に応募させるかといった技巧（試験科目の減少等）に各大学が奔走した結果、各大学とも学習意欲の低い学生の入学を招き、さらに、このことが卒業生の就職困難に繋がり、就職先がない理由での大学院へ進学する例が急増しています。就職の難しい女性の大学院進学も年々増加しています。幸い、本化学教室は、これまでの伝統を守り、厳しい教育を行っています。また、特に受験勉強とは関係ない潜在素質の優れた地方の学生が多く入学してくれます。このため卒業生は、苦労しながらもほぼ全員就職が決まっています。本年も、19名いた修士の修了予定者も1名の公務員希望を除き、民間企業に全員就職が内定しています。これも、これまでの、本化学教室の伝統のお陰と卒業生の皆様に感謝しています。

末筆ながら、皆様方のご健勝と益々のご発展とを、心からお祈り申し上げます。（小野 記）

【生物学教室】

皆様お変わりございませんか。生物学教室は大きく変わりました。授業で思い出すのは何といってもゼミナールでしょう。辞書片手に一生懸命単語を引き、訳してみたが何のことかさっぱり解わからない訳文。そのゼミが8単位必修が6単位に、そして現在は4単位になりました。月曜から金曜まで午後は実験でしたが、水曜までになりました。3回生後期は実験3の組（5F）と課題研究の組（各研究室）に分かれます。

退官された先生方と後任の先生方についてお知らせします。退官された先生についてはそのつど書状でお知らせしてありますが、本会報でまとめてもう一度お知らせします。発生学講座の石川優先生は、平成元年4月1日付けで、停年退官され、62年生物学科卒業生の高田裕美さんが広大院から教務職員として発生学講座のスタッフになりました。平成5年3月に臨海実験所の二階堂要先生が、同年5月には教養部の垣内美弘先生が、退官されました。臨海実験所には琉球大から上田拓史先生が5年5月付けで着任されました。6年3月には形態学講座の越智脩先生が、そして、7年3月には生理学講座の村山徹郎先生が停年退官されました。もう一人、教養部の山口武雄先生は、在籍8年間でしたが、停年で退官されました。形態学講座には7年6月東北大院から佐藤康先生が、越智先生の後任として着任されました。ベビーブームの対応策として出されていた学生定員の臨時増募（生物学科は1学年34名、4名増）がありましたが、理学部の教官の若干増もありました。それが生物学科にまわってきた、7年6月カナダのグエルフ大からアンドリュウ・ロシタ先生が着任され、基礎ゼミナールや生態学の授業を分担される事になりました。7年に水野信彦先生が理

学部長に選出されました。大学院博士課程設置と理学部改組という大事業の仕上がりを見とどけて、部長任期1年を残した状態で、8年3月末に突然退官されました。

訃報もあります。大植登志夫先生が元年3月6日に、宮本義男先生が4年11月30日に逝去されました。

ここ数年、全国的な不況のあおりをくって、生物学科の学生の求職活動は大変です。5月から9月までは、大学院受験期も入っていますが、卒業研究は開店休業です。就職を2年先に延ばして大学院へ進学という学生が急増して来ました。特に、女子学生の進学が目立ちます。本学理学研究科への進学者数はまあまあですが、他大学院、特に、広大への進学者数は目を見張るものがあります。他に、九大、岡山大、神戸大、大阪大、大阪市大、京大、名大、上智大、横浜市大、東大へと進学しています。この傾向は今後も続くでしょう。

卒業生の皆さんにお願いがあります。年賀状、結婚しましたハガキ、転勤・転職のあいさつ状などを、生物学教室あてに1枚送ってください。先生方はもちろんのこと、後輩にも皆さんの消息を知ってもらうためご協力をお願いします。学科名や講座名は変わっても生物学教室はそのままです。（野田 記）

【地球科学教室】（生物地球圏科学科・地球科学系）

卒業生の皆様、いかがお過ごしですか。地球科学教室はここ数年で大きく変わりました。以下に順を追ってご報告します。

平成元年3月をもって松尾秀邦先生（地質学）が停年退官されました。先生は現在も松山市にご在住です。平成元年4月から地質学・堆積学の水野篤行先生（地質学）が山口大学から、高圧実験の入船徹男先生（資源探査学）が北海道大学から赴任されました。また5月には構造地質学の竹下徹先生（地質学）がアメリカから赴任されました。

平成2年3月には松川正樹先生（地質学）が西東京技術科学大学へ転出されました。先生はその後さらに母校の東京学芸大学に移られたとのことです。また4月から事務室の小玉豊美さんが教育学部へ転出され、後任に医学部から中矢順子さんが赴任されました。6月には古生物学、とくに異常巻アンモナイトの岡本隆先生（地質学）が赴任されました。

平成5年4月には藤野清志先生（鉱物学）が北海道大学へ、川辺岩夫先生（地殻化学）が名古屋大学へ、竹下徹先生（地質学）が広島大学へと、一度に3人が転出されました。後任として鉱物学、とくに地表近くの鉱物—水反応の村上隆先生（鉱物学）が原子力研究所から赴任されました。またこの年停年退官後もお元気だった都築芳郎先生が亡くなられました。ご冥福をお祈りいたします。

平成6年3月には小河正基先生(資源探査学)が東京大学教養学部へ転出されました。また水野篤行先生(地質学)が停年退官され、東京で悠々自適の暮らしに入られました。4月からは実験岩石学の川崎智佑先生(地殻化学)、隕石や高圧相鉱物の森寛志先生(鉱物学)、微化石、地質古環境の堀(榊原)利栄先生(地質学)、断層の構造地質学、鉱物学の田中秀実先生(地殻化学)、シミュレーションによる測地学、地震学の吉岡祥一先生(資源探査学)の4人に来ていただき、教室のスタッフもすっかり変わった感があります。

平成7年3月には、地球科学教室創設以来ずっと教室を支えていただいた桃井斉先生(鉱物学)が停年退官されました。先生には今も非常勤講師として一般教育の講義をお願いしています。4月には村上隆先生(鉱物学)が東京大学へ転出されました。また事務室の中矢順子さんが工学部へ移られ、その後任に理学部庶務から外山廣子さんにきていただきました。

平成8年4月からは理学部は従来の5学科から3学科に改組になり、地球科学科は生物学科と合併して生物地球圏科学科になりました。従来の4講座はなくなり、生物機能科学(生物)、生態環境変遷学(生物+地球科学)、地球進化学(地球科学)の3大講座になりました。また教養部廃止にともない、岩石学の田崎耕市先生は理学部にきていただきました。鹿島愛彦先生は農学部に移られました。薄片や写真で長らくお世話になった森祐一さんが庶務係へ移られ、薄片の仕事は赤松博美さんにきていただいています。10月からは高圧実験の井上徹先生がニューヨーク州立大から赴任されました。またこの年加藤元彦先生が亡くなられました。ご冥福をお礼いたします。

平成8年度からドクターコース(理工学研究科環境科学専攻)も発足し、菅野孝美君(社会人選抜)と黒田幸治君が在学しています。来年度も一期生の塩田昭夫君(社会人選抜)と内から3人の入学が予定されています。

以上ここ数年間の教室の様子を、羅列的になってしまいましたが、お知らせする次第です。最後に卒業生の皆様のご健康とご活躍を祈ります。(大野一郎 記)



愛媛大学正門

現 教 職 員

(敬称略)

(平成8年12月2日現在)

氏名前の数字は089-927につづくダイヤルインの電話番号、()内のは内線番号、愛媛大学の代表番号は089-927-9000、Fax番号は089-927につづく番号

☎ 790-77 松山市文京町2番5号
電話(089)927-××××
(ダイヤルイン)

〔理 学 部〕

学 部 長(併) ⑦ 9600 教 授 小 松 正 幸
数理科学科

学 科 長(併) 教 授 内 藤 学
構造数理学 ⑦ 9554 教 授 木 村 浩

⑦ 9555 教 授 野 倉 嗣 紀

⑦ 9556 教 授 木 曾 和 啓

⑦ 9557 助 教 佐々木 洋 城

⑦ 9558 助 教 授 シャクマトフ・

ディミトリ・

ポリソビッチ

⑦ 9559 助 手 庭 崎 隆

⑦ 9561 助 手 藤 田 博 司

解析数理学 ⑦ 9562 教 授 内 藤 学

⑦ 9563 教 授 森 本 宏 明

⑦ 9564 助 教 授 坂 口 茂

⑦ 9565 助 教 授 平 出 耕 一

⑦ 9566 助 教 授 若 木 宏 文

⑦ 9567 助 手 橋 本 貴 宏

情報数理学 ⑦ 9568 教 授 山 本 哲 朗

⑦ 9569 教 授 中 川 祐 治

⑦ 9570 助 教 授 土 屋 卓 也

⑦ 9571 助 教 授 森 作 常 生

⑦ 9572 講 師 柳 重 則

⑦ 9573 助 手 方 青

物質理学科

学 科 長(併) 教 授 長谷川 高 陽

基礎物理科学 ⑦ 9578 教 授 上 田 保

⑦ 9579 教 授 長谷川 高 陽

⑦ 9581 教 授 江 沢 康 生

⑦ 9582 助 教 授 三 島 靖

⑦ 9583 助 教 授 川 合 栄 一 郎

⑦ 9584 助 手 飯 塚 剛 博

⑦ 9585 助 手 松 岡 千 博

物 性 科 学 ⑦ 9586 教 授 丹 下 初 夫

⑦ 9587 教 授 井 上 直 樹

⑦ 9588 教 授 向 井 和 男

⑦ 9589 助 教 授 神 森 達 雄

⑦ 9591 助 教 授 飯 田 晋 司

⑦ 9592 助 教 授 長 岡 伸 一

⑦ 9593 助 教 授 四 方 英 雄

⑦ 9594 助 手 小 西 健 介

⑦ 9595 助 手 近 藤 久 雄

⑦ 9596 助 手 小 原 敬 士

物質機能科学 ⑦ 9597 教 授 河 野 博 之

⑦ 9598 教 授 吉 井 尚 雄

⑦ 9599 教 授 東 長 雄

⑦ 9602 教 授 菅 谷 礼 爾

分子物質科学	⌚ 9603	助 教 授	須 川 正 雄
	⌚ 9604	助 教 授	樋 高 義 昭
	⌚ 9605	助 教 授	横 田 俊 昭
	Fax 9606		
	⌚ 9607	助 手	前 原 常 弘
	⌚ 9608	助 手	浅 田 洋
	⌚ 9609	教 授	真 鍋 敬
	⌚ 9610	教 授	小 野 昇
	⌚ 9611	教 授	林 秀 則
	⌚ 9612	助 教 授	北 村 揚 一
	⌚ 9613	助 教 授	小 川 琢 一
	⌚ 9614	助 手	渡 部 清 勝
	⌚ 9615	助 手	村 嶋 貴 之
	⌚ 9616	助 手	森 田 勇 人
	⌚ 9617	助 手	島 崎 洋 次

生物地球圏科学科

学 科 長(併)		教 授	柳 沢 康 信
生物機能科学	⌚ 9624	教 授	黒 木 酉 三
	⌚ 9625	教 授	城 尾 昌 範
	⌚ 9626	教 授	日 原 冬 生
	⌚ 9627	教 授	佐 藤 成 一
	⌚ 9628	教 授	遠 山 鴻
	⌚ 9629	助 教 授	野 田 善 郎
	⌚ 9631	助 教 授	加 納 正 道
	⌚ 9632	講 師	小 南 哲 也
	⌚ 9633	助 手	佐 藤 康
生態環境変遷学	⌚ 9634	助 手	井 上 雅 裕
	⌚ 9638	教 授	柳 澤 康 信
	⌚ 9636	教 授	小 松 正 幸
	⌚ 9637	教 授	田 崎 耕 市
	⌚ 9641	助 教 授	和多田 正 義
	⌚ 9639	助 教 授	ロシター・ アンドリュース
	⌚ 9642	助 教 授	岡 本 隆 二
	⌚ 9643	助 教 授	大 森 浩 利
地 球 進 化 学	⌚ 9644	助 手	榊 原 徹 男
	⌚ 9645	教 授	入 舩 徹 智
	⌚ 9646	教 授	川 崎 智 佑
	⌚ 9647	教 授	大 野 一 郎
	⌚ 9648	助 教 授	森 原 寛 志
	⌚ 9649	助 教 授	榊 原 正 幸
	⌚ 9650	助 手	皆 川 鉄 雄
	⌚ 9651	助 手	田 中 秀 実
	⌚ 9652	助 手	吉 岡 祥 一
	⌚ 9658	助 手	井 上 徹

事 務 部

事 務 長	⌚ 9601	程 内 良 豊
専 門 員 (企画調整担当)	⌚ 9540	日野岡 洋 三
庶 務 係		
係 長	⌚ 9541	鈴 木 俊 之
庶 務 主 任	(9542)	落 藤 保 子
人 事 主 任	(9542)	渡 邊 正 則
事 務 官	(9542)	山 岡 幸 代
技 官	⌚ 9661	森 祐 一
技 官	⌚ 9661	宮 内 伊 津 子

会 計 係	Fax 9550	
係 長	⌚ 9543	
経 理 主 任	(9544)	
用 度 主 任	(9545)	
出 納 主 任	(9544)	
調 度 主 任	(9545)	
事 務 官	(9545)	
事 務 補 佐 員	(9549)	
臨 時 用 務 員		
臨 時 用 務 員		
学 務 係	Fax 9657	
係 長	⌚ 9546	
教 務 主 任	(9547)	
学 生 主 任	(9547)	
事 務 官	(9547)	

教 室 関 係

数理科学科事務室	⌚ 9553	事 務 官	山 本 敦 美
Fax9560	⌚ 9553	事務補佐員	延 川 真 由 美
物質理学科事務室 (物理分室)	⌚ 9618	技 官	奥 村 秀 彦
Fax9580	⌚ 9576	事務補佐員	久 保 宗 子
物質理学科事務室 (化学分室)	⌚ 9577	事 務 官	森 中 純 子
Fax9590	⌚ 9577	事務補佐員	谷 川 良 子
生物地球圏科学科 事務室(生物分室)	⌚ 9622	技 官	八 塚 享 幸
Fax9630	⌚ 9653	技 官	高 田 裕 美
生物地球圏科学科 事務室(地球科学分室)	⌚ 9623	事務室主任	外 山 廣 子
Fax9640			
共通教育棟 生物学事務室	⌚ 8928	技 官	大 森 由 美

共通教育 教室関係

物 理 学 第一準備室	⌚ 8925	技術補佐員	山 内 一 樹
物 理 学 第二準備室	⌚ 8926	技術補佐員	山 本 智 規
化 学	⌚ 8927	事務補佐員	上 甲 真 理

〔理学部附属臨海実験所〕

所 長(併)			
助 教 授	上 田 拓 史		
助 教 授	上 田 拓 史		
助 手	金 本 自由生		
臨時用務員	木 田 悦 子		

〔機器分析センター〕

セ ン タ ー 長 (併)			
⌚ 9610	(理学部教授)	小 野 昇	
⌚ 9660	(センター長室)		
⌚ 9663	助 教 授	宇 野 英 満	
⌚ 9664	助 教 授	谷 弘 幸	
⌚ 9662	助 手	倉 本 誠	
⌚ 9661	技 官	鎌 田 浩 子	
⌚ 9665			

☎ 791-45 温泉郡中島町大字小浜字瀬木戸
電話(089)997-1019
Fax (089)997-1696

☎ 790-77 松山市文京町2番5号
電話(089)927-9661
(089)927-××××
(ダイヤルイン)
Fax (089)927-9670

旧教養部教官

転属先（平成8年12月2日現在）（敬称略）

部 長(併)	小 西 永 倫	→ 農学部
人 文		
哲 学	小 沼 大 八	→ 法文学部人文学科人間科学（比較思想論） ㊦ 9292 教授
	黒 木 幹 夫	→ 法文学部人文学科日本アジア文化（日本思想史） ㊦ 9324 教授
倫 理 学	遠 藤 克 彦	→ 法文学部総合政策学科政策情報科学（社会科学方法論） ㊦ 9228 教授
歴 史 学	池 田 忠 生	→ 法文学部人文学科欧米文化（ヨーロッパ歴史文化論） ㊦ 9334 教授
	松 原 弘 宣	→ 法文学部人文学科日本アジア文化（日本歴史交流論） ㊦ 9318 教授
	藤 田 勝 久	→ 法文学部人文学科日本アジア文化（アジア地域史） ㊦ 9329 助教授
	田 崎 博 之	→ 法文学部人文学科人間科学（埋蔵文化財論） ㊦ 9310 助教授
文 学	河 合 眞 澄	→ 法文学部人文学科日本アジア文化（日本芸能史） ㊦ 9325 助教授
芸 術 学	松 久 勝 利	→ 法文学部人文学科人間科学（芸術論） ㊦ 9294 教授
社 会		
心 理 学	中 村 勝	→ 農学部生物資源学科生物資源政策学（地域社会情報システム） 946-9921 教授
	中 村 雅 彦	→ 教育学部学校教育（心理学） ㊦ 9533 助教授
文化人類学	上 田 紀 行	→ 転職（東京工業大学助教授・工学部）
社 会 学	永 野 由紀子	→ 法文学部人文学科人間科学（社会文化論） ㊦ 9299 助教授
法 学	諸 根 貞 夫	→ 教育学部社会科教育（法学） ㊦ 9420 教授
	上 山 友 一	→ 法文学部総合政策学科政策情報科学（法情報論） ㊦ 9233 助教授
経 済 学	佐々木 昇	→ 法文学部総合政策学科比較経済システム（国際貿易システム） ㊦ 9267 教授
地 理 学	寺 谷 亮 司	→ 法文学部人文学科人間科学（地域景観論） ㊦ 9306 助教授
自 然		
数 学	森 本 宏 明・木 曾 和 啓・若 木 宏 文	→ 理学部数理科学科
	三 好 武 雄	→ 工学部機械工学科（生産システム学） ㊦ 9730 助教授
	津 田 光 一	→ 工学部電気電子工学科（通信システム工学） ㊦ 9778 教授
物 理 学	吉 井 尚・江 沢 康 生・横 田 俊 昭	→ 理学部物質理学科
	宮 谷 和 雄	→ 工学部機能材料工学科（材料物性工学） ㊦ 9880 教授
	長谷部 信 行	→ 工学部情報工学科（応用情報工学） ㊦ 9967 助教授
	田 中 寿 郎	→ 工学部機能材料工学科（材料物質工学） ㊦ 9883 助教授
化 学	東 長 雄・四 方 英 雄	→ 理学部物質理学科
生 物 学	日 原 冬 生・加 納 正 道・和多田 正義	→ 理学部生物地球圏科学科
地 学	田 崎 耕 市	→ 理学部生物地球圏科学科
	鹿 島 愛 彦	→ 農学部生物資源学科生物環境物理学（地域防災地質） 946-9923 教授
情 報 科 学	森 作 常 生	→ 理学部数理科学科
	二 神 透	→ 工学部環境建設工学科（海洋環境工学） ㊦ 9837 講師
外 国 語		
英 語	森 田 勝 美	→ 停年退職（平成8年3月）
	小 西 永 倫	→ 農学部生物資源学科生物資源政策学（資源・環境管理） 946-9920 教授
	中 村 保 夫	→ 法文学部人文学科欧米文化（英米歴史文化論） ㊦ 9335 教授
	天 野 雅 文	→ 法文学部人文学科欧米文化（異文化間コミュニケーション論） ㊦ 9350 教授
	林 康 次	→ 法文学部人文学科欧米文化（現代英語表現論） ㊦ 9347 教授
	望 月 佳重子	→ 法文学部人文学科欧米文化（英米女性文化論） ㊦ 9344 教授
	木 下 卓	→ 法文学部人文学科欧米文化（イギリス文化論） ㊦ 9345 教授
	加 藤 好 文	→ 法文学部人文学科欧米文化（アメリカ文化論） ㊦ 9346 助教授
	藤 江 啓 子	→ 法文学部総合政策学科比較経済システム（英米事情研究） ㊦ 9271 助教授
	野 崎 重 敦	→ 法文学部人文学科欧米文化（国際英語論） ㊦ 9348 助教授
	折 本 素	→ 法文学部総合政策学科比較経済システム（実務英語） ㊦ 9272 助教授
	木 下 英 文	→ 法文学部人文学科欧米文化（英語コミュニケーション論） ㊦ 9349 助教授
	中 村 英 男	→ 転職（東京都立大学人文学部講師）
	ロナルド・ポー ル・マーフィ	→ 法文学部外国人教師（英語） ㊦ 9358
独 語	山 本 篤 司	→ 法文学部人文学科日本アジア文化（アジア文化論） ㊦ 9326 教授
	高 橋 信 之	→ 退職（平成8年3月）
	藤 田 正 幸	→ 法文学部人文学科欧米文化（ヨーロッパ文化論） ㊦ 9351 教授

	並 木 武	→	工学部機能材料工学科（機能応用工学） ㊦ 9899 教授
	松 本 要	→	法文学部人文学科日本アジア文化（比較文学論） ㊦ 9315 教授
	牧 秀 明	→	法文学部人文学科欧米文化（ヨーロッパ言語文化論） ㊦ 9352 助教授
	宇和川 耕 一	→	法文学部人文学科人間科学（表象文化論） ㊦ 9312 助教授
	古 川 千 家	→	法文学部人文学科人間科学（表象文化論） ㊦ 9313 助教授
	ライネルト・ ルードルフ	→	法文学部外国人教師（ドイツ語） ㊦ 9359
仏 語	立 川 信 子	→	法文学部人文学科欧米文化（フランス現代文学論） ㊦ 9357 助教授
	マゼルブウル・ ニコル	→	法文学部外国人教師（フランス語） ㊦ 9360
中 国 語	湯 山 トミ子	→	転職（東京成蹊大学法文学部助教授）
	秋 谷 裕 幸	→	法文学部総合政策学科比較経済システム（中国事情研究） ㊦ 9270 講師
	丁 芳 云	→	法文学部外国人教師（中国語） ㊦ 9361
保健体育			
保健体育	田 中 純 二	→	教育学部保健体育（保健体育） ㊦ 9477 教授
	渡 部 晴 行	→	教育学部保健体育（保健体育） ㊦ 9479 教授 ㊦ 9007 学生部長
	久 保 玄 次	→	教育学部保健体育（保健体育） ㊦ 9481 教授
	鵜 川 是	→	教育学部保健体育（保健体育） ㊦ 9483 教授
	藤 原 誠	→	教育学部保健体育（保健体育） ㊦ 9478 助教授
	浅 井 英 典	→	教育学部保健体育（保健体育） ㊦ 9480 助教授
	福 田 隆	→	教育学部保健体育（保健体育） ㊦ 9482 助教授
	石 井 浩 一	→	教育学部保健体育（保健体育） ㊦ 9484 助教授
日 本 語 ・ 日 本 事 情	杉 本 和 之	→	教育学部国語教育（日本語・日本事情） ㊦ 9407 助教授

上記の転属の外、理系では平成6年3月、化学の江頭暁先生が停年退職、平成7年3月、数学の武田和昭先生と生物の山口武雄先生が停年退職、同年4月、化学の松本昭先生と高岡大輔先生が愛媛大学教育学部教授（化学）に転属、数学の田沼一実先生が大阪教育大学教育学部（助教授）へ、化学の田村類先生が北海道大学大学院地球環境科学研究科（助教授）へ転職されました。電話は松本先生㊦ 9432、高岡先生㊦ 9434。

愛媛大学理学部 50 年史（仮称）原稿募集

平成11年、愛媛大学が発足して50年になります。愛媛大学全体の50年史作成の準備も始まっていますが、文理学部理学科及び理学部の愛媛大学理学部50年史も同時に作成することになりました。

理学部50年史は2部からなり、第一部は歴史的なものを主体に大学の元教職員と現教職員が中心になって編集し、第二部は同窓生の随筆を中心に作ることにしました。同窓会の理事会で相談した結果、第二部の原稿募集の方法が次のように決まりました。

1. 第二部は同窓生1人が写真と随筆でA4判1頁ずつを分担構成する。表題、氏名以外に、850字から1,000字の随筆と思い出の写真1枚（出来れば文章と関連のあるもの、又は大学周辺の写真）。写真は製版

後返却する。

2. 執筆希望者を同窓会報で募る。執筆希望者には改めて詳しい執筆要領を送付する（平成9年3月か4月）。原稿の締め切りは平成10年夏ころ。
3. 理学部50年史の配布方法は後日検討し、改めて会員に連絡する。

皆さん、青春の思い出を活字で残しませんか！

原稿執筆希望の方は、同封の葉書に理学部50年史執筆希望有を〇印で囲み、主としてどのような内容の事を書かれるか簡単に書いて下さい。例えば、入学、授業、卒論、課外活動、コンパ、学内紛争、留学、卒業、就職など。

愛媛大学同窓会連合会結婚相談所（MCC）事務所移転のお知らせ

平成9年1月15日、上記事務所が松山市歩行町2丁目1-18 佐伯物産ビル2F（国際ホテルの斜め向かい）に移転することになりました。電話は元のまま（089-947-2248）です。結婚相談所は、祝祭日と水曜日から日曜日までの14時から18時まで開いております。

愛媛大学職員会館（朋友会館）宿泊のお知らせ

大学に御用の同窓生の方は、会館に余裕があれば宿泊できます（夕食なし）。先生に照会されるか、理学部学務でおたずねください。

理学同窓会会計報告

1988(S63)年度

収	入	支	出
前年度繰越	7,288,907	通信費等	960,180
会費	930,000	印刷費等	2,340,000
名簿	2,158,000	文具等	22,290
利子	290,477	雑費	106,000
収入計	10,667,384	支出計	3,428,470

1989(H1)年度

収	入	支	出
前年度繰越	7,238,914	通信費等	16,963
会費	955,000	印刷費等	27,220
名簿	12,000	文具等	7,822
利子	142,958	学部寄付	120,000
		雑費	2,100
収入計	8,348,872	支出計	174,105

(学部寄付は講義室の時計代)

1990(H2)年度

収	入	支	出
前年度繰越	8,174,767	通信費等	47,549
会費	990,000	印刷費等	56,150
利子	1,230,836	文具等	11,217
		支部補助	100,000
		雑費	7,266
収入計	10,395,603	支出計	222,182

1991(H3)年度

収	入	支	出
前年度繰越	10,173,421	通信費等	35,630
会費	940,000	印刷費等	28,750
名簿	2,000	文具等	6,304
利子	441,934	支部補助	100,000
		旅費	140,000
収入計	11,557,355	支出計	310,684

(旅費は支部総会への恩師派遣旅費)

1992(H4)年度

収	入	支	出
前年度繰越	11,246,671	通信費等	16,400
会費	1,040,000	印刷費等	94,000
利子	594,497	文具等	8,465
		支部補助	100,000
		旅費	140,000
収入計	12,881,168	支出計	358,865

1993(H5)年度

収	入	支	出
前年度繰越	12,522,303	通信費等	949,262
会費	970,000	印刷費等	2,156,070
名簿	2,799,000	文具等	27,118
利子	567,111	支部補助	100,000
		旅費	140,000
		学部寄付	1,000,000
		雑費	9,460
収入計	16,858,414	支出計	4,381,910

(学部寄付は学部広報用)

1994(H6)年度

収	入	支	出
前年度繰越	12,476,504	通信費等	20,740
会費	1,000,000	印刷費等	157,918
名簿	15,000	文具等	3,502
利子	479,359	支部補助	100,000
		旅費	140,000
		雑費	5,000
収入計	13,970,863	支出計	427,160

1995(H7)年度

収	入	支	出
前年度繰越	13,543,703	通信費等	28,360
会費	1,025,000	印刷費等	137,140
名簿	15,000	支部補助	100,000
利子	342,372	旅費	140,000
		雑費	7,500
収入計	14,926,075	支出計	413,000

次年度へ繰越 14,513,075



元文理学部理学科棟・元教養部・現在は共通教育棟

あ と が き

松の木が1本しかなかった野っ原の城北練兵場跡に、文理学部と教育学部の建物が建ち始めて40数年。親指位の太さだったユリノキが上の写真のように大きくなり、正面玄関両脇のワシントンヤシが建物より高くなりました。

理学部になってから植えたフェニックスも随分大きくなりました(表紙写真)。

愛媛大学では、今年(1996年)3月教養部が廃止され、4月には理学部の大幅な改組、工学部と合同での博士後期課程の設置が行われ、理学部の中がどのようになっているか分かりにくくなりました。平成2年以来、理学部の同窓会報を出すのをサボっていましたが、学部内の学科構成のお知らせもかねて同窓会報を出すことにしました。

平成11年には愛媛大学ができて50年になります。愛媛大学全体では、平成11年11月11日(開学記念日)の午前中に式典が行われ、大学全体の50年史を出版する計画のようです。理学部でも独自で50年史を出版することになりましたから、是非参加してください(9頁参照)。また、平成10年秋、5年ぶりで理学部の同窓会会員名簿を出す予定です。その予備調査もかねて返信用はがきを同封しましたから、必ず送り返してください。

最後に、皆さんのご健康とご活躍をお祈りしております。(越智)

平成8年12月 発行

愛 媛 大 学 理 学 同 窓 会

〒790-77 松山市文京町2-5